

改訂版発行を祝し再度推薦する

2007年の初版発行から4年が過ぎ、今回改訂版を出されるにあたり再度推薦文を依頼された。大変恐縮するとともに、ここ数年、類書の出版が多いなか、順調に時代の進歩に即した改訂版が出るというのは、いかに本書が多くの人たちに受け入れられたのかと思うと御同慶の至りである。

振り返ってみると、私が日本静脈経腸栄養学会の初代理事長を引き受けた平成10年（1998）当時、会員はほとんど医師会員700名足らずであった。それからコ・メディカルに入会の門戸を開き、医師の臨床栄養の教育（TNTプロジェクト）そしてNSTの全国的展開、そして2010年の「NST実施に対する保険加算」と一挙にブレイクし、会員数も一挙に15,000人に膨れ上がりNSTも始めた時は10余施設だったのが、現在では1,500の施設に増加したという。また、TNTによる医師の教育も5年間で1万人の目標ははるかに早いペースでクリアし、これらの開始時期から苦労をともししてきた大熊氏は、私にとって同志、盟友と呼べる数少ない人である。お互い第一線から退き悠々自適の退職後生活を楽しんでいるが、時代の流れは速く、この領域の行く末は気になるし、また取り残されないように努力している。

本書はコ・メディカルの読者を意識してか装丁も中身もカラーフルで、いかにも取りつきやすい。あらゆるキーワードについて最近の進歩の最先端にいる先生たちが要領よく解説している。大熊氏の序文でも取り上げているが、新しいERASの話題も新たに加えられている。私も大熊氏と同じく、専門は食道、消化器外科であり、この問題は外科における栄養管理の原点ともいうべき、古くて新しい問題であり、最近、改めて話題になっていることは、大変喜ばしいことである。

また診療報酬まで解説している類書は知らない。まことに親切な本である。さらに版を重ねるであろうことを祈念して改めて心より推薦する。

2011年6月

日本静脈経腸栄養学会名誉会長
小越章平